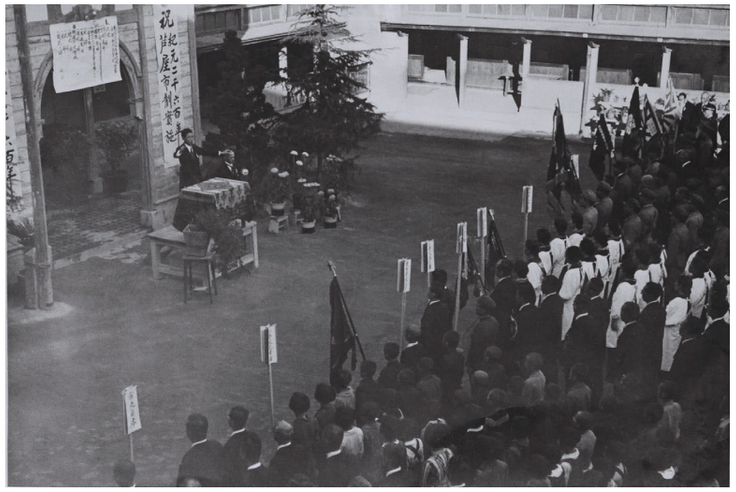
精道村から芦屋市へ

昭和 15 年（1940）11 月 10 日、精道村の村民が長年望んでいた市制施行が実現し、全国 173 番目の市として芦屋市が誕生しました。この時、町を跳び越えて一気に村から市へ移行したことは大変珍しく、このことからも精道村が富豪村であったことがわかります。市制施行日は第 2 次近衛文麿内閣による皇紀 2600 年（昭和 15 年〔1940〕で、「皇紀」は史実でない初代の神武天皇即位の年を紀元とする戦前に用いられた紀年法）の記念式典の挙行日に合わせたもので、当日は全国で祝賀行事が繰り広げられ、芦屋市内でも提灯行列や旗行列が催されました。

なお、市制の実施は昭和 13 年（1938）に予定していましたが、阪神大水害の発生（22 ページ）によって延期されていました。また、昭和 15 年（1940）2 月 11 日を市制施行日として準備していましたが、これも延期された結果、昭和 15 年（1940）11 月 10 日となりました。



精道小学校で開催された市制実施祝賀式のようす

（昭和 15 年〔1940〕11 月 10 日撮影）

校舎に貼られた垂れ幕には、「紀元（皇紀）二千六百年」と「芦屋市制実施」が並べて書かれている。当日は、宮城前広場（現在の皇居前広場）で開催された紀元 2600 年記念式典に出席した芦屋市民もいた。

その後、芦屋市は、昭和 20 年（1945）の空襲により、市街地の約 4 割が焼失しました。戦後は、昭和 26 年（1951）に公布された芦屋国際文化住宅都市建設法に基づき、独自の住宅都市にふさわしいまちづくりが進められました。平成 7 年（1995）に起こった阪神・淡路大震災で壊滅的な被害を受けながらも復興に努め、現在に至ります。

芦屋高等女学校の生徒たちによる市制施行祝賀の旗行列

（市役所前。昭和 16 年〔1941〕夏撮影）

戦争などの影響で、市制施行の正式な祝賀式は昭和 16 年（1941）夏に校舎の新しかった岩園小学校で行われた。

写真は市役所前の芦屋高等女学校の生徒達による市制施行祝賀の旗行列。

コラム　なぜ、「精道市」ではなく「芦屋市」なのか

市名が「精道市」ではなく、「芦屋市」に決定したことについて、精道村の公文書には次のような理由が示されています。すなわち、「芦屋」の名が全国はもとより遠く海外にまで知られており、村民ですら精道村のことを「芦屋」と呼び、阪神間においても精道村の名が知られていないのが実態であり、また、精道村にある公的施設などの名称は、国鉄芦屋駅、阪急芦屋川駅、阪神芦屋駅、芦屋警察署、芦屋郵便局、芦屋高等女学校など、すべて「芦屋」を冠していて、「精道」を冠するものはないことから、新市の名称は世間一般に知られている「芦屋」とすることが最も適切と考える、といった内容です。

主な参考文献

芦屋市　1971『新修芦屋市史』本篇
芦屋市　1986『新修芦屋市史』資料篇 2
芦屋市　1990a『芦屋今むかし　市制施行 50 周年記念写真集』
芦屋市　1990b『芦屋のうつりかわり　市制施行 50 周年記念写真集』
芦屋市　2011『新修芦屋市史』続篇
芦屋市教育委員会　1979『芦屋の生活文化史―民俗と史跡をたずねて―』
芦屋市教育委員会　2013『芦屋川の歴史』
芦屋市教育委員会　2015『芦屋の文化財ハンドブック』
芦屋市文化振興財団　1998『写真で見る芦屋今むかし』＜あしや子ども風土記第 7 集＞
芦屋市文化振興財団　2000『写真で見る芦屋今むかし 2』＜あしや子ども風土記第 9 集＞
芦屋市立美術博物館　1996『手手かむイワシいらんかぇ―芦屋の海と暮らし―』光琳社
清水靖夫編　1995『明治前期・昭和前期　神戸都市地図』　柏書房
仲彦三郎　1911『西摂大観』（郡部）
阪神沿線の文化 110 年展実行委員会　2015『阪神沿線　まちと文化の 110 年』神戸新聞総合出版センター
「阪神間モダニズム」展実行委員会　1998『阪神間モダニズム　六甲山麓に花開いた文化、明治末期―昭和 15 年の軌跡』　淡交社
藤川祐作監修　2018『芦屋市の昭和』　樹林舎
細川道草　1963『芦屋郷土誌』　芦屋史談会
武庫郡教育會　1921『武庫郡誌』